

て、千日町雨寶院へ合併し、遍照寺の寺號を廢止して、佛  
体共をば悉く雨寶院へ遷座なしたり。

○遍照寺祈禱

當寺は、舊藩三世中納言利常卿以來の祈禱所なり。故に小  
松に在城し給ふ頃瘧病を煩ひ給ふに依つて、奥村因幡の護  
摩執行を依頼したる書簡あり。如左。

中納言様御氣色之御様躰、乍恐承度存、重而以使者申入  
候。其元より被仰越候躰に而者、御瘧に而可有御座かと  
存候。此地遍照寺護摩之御祈禱に而、瘧落申候様に取沙汰  
仕に付而、昨晚より頼入、御祈禱之護摩爲燒申御事候。  
御返事に、御氣色之御様子、被仰越候者可忝候。恐々謹  
言。

七月十一日

奥村因幡守判

長谷川大學様

瀬川五郎兵衛様

稻垣長兵衛様 人々御中

右は小松遺文に載之。按するに、遍照寺は利常卿幼少にて  
居ましける時よりの祈禱所なりし故に、殊に當寺にて護摩

を執行せしめたるなるべし。金澤町會所留記に、享保三年  
五月七日豐姫君及御袋之方、玉泉寺・遍照寺へ御參詣云々。  
の書簡共を載せたり。此の時代までは、利常卿以來の由緒  
にて、城内廣式向には尙當寺の祈禱の事を、内々にて命ぜ  
られしと聞ゆれど、其の後は絶えたりけん、祈禱所の名義  
なしといへり。

○十輪堂地蔵

普門禪師の地藏靈驗新記に云ふ。泉野寺町玖眞山遍照密寺  
の十輪堂本尊延命地藏菩薩は、弘法大師の眞作、立像二尺  
六寸餘、現住暗嶽法印若州三方郡向笠村日照山月輪寺より  
拜請し、一字の堂を營構せんと發軔せらる。乾氏知榮・古原  
氏剛智及び諸檀信等義を見てするを勇み、元祿七甲戌の冬  
より催し、翌年の春功を竣りて落成し、額を十輪堂と號し、  
三月十八日入佛安座す。と記載して、其の靈驗共を多く擧  
げたり。従前此の地に寺ありし比は、遍照寺の地藏尊とて  
信仰の人多く、隨つて靈驗もありしといへり。右地藏の石  
像、遍照寺移轉に隨うて、大乘寺坂の麓に移し、今は犀川  
雨寶院に安置す。

○本源山龍雲寺

曹洞宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開山能州芳春院五  
代文意和尚、寛永十八年建立、地子地に罷在。とありて、外  
に來歴なき寺院なり。三箇屋版の六用集に、本源山龍雲寺  
泉野と載せたり。此の寺地今は笹ヶ町に屬すといへども、  
遍照寺遺跡の並びにて、玉泉寺の近邊なる故爰に記載す。

○六斗林町

此の町名は六斗林町と書けり。國事昌披問答に載せたる金  
澤町名書に、六斗林町と見え、三州志來因概覽附録に載せ  
たる金澤街名中にも、六斗林町とあり。金澤町會所留記に、  
文政四年二月町奉行支配に引請候郡地ヶ所泉野村領六斗林  
は、六斗林町之内に建込、橋より末は地黃煎町。とありて、  
そのかみ六斗林町と稱せしかど、明治四年戶籍編成町名改  
正の時より、六斗林一丁目・同二丁目・同三丁目と稱する事  
となりたり。

○六 勳 林

六勳は、泉野の小名にて、木林あるを以て六勳林と稱せし  
を、遂に六勳林と地名になりたるもの也。六勳をば六道或

は六斗とも書けり。改作所舊記に載せたる延寶四年地子地  
取調書に、泉野村領之内六斗林と見え、元祿九年地子町肝煎  
裁許附に、泉野後・六道林とあり。高澤忠順の金澤事蹟必錄  
に、六斗林享保の頃までは、片側野原にて風難甚だしきに  
より、家建の願を出し、追々家屋出來せり。此の十四・五年  
以前までは、八幡鳥居のかどに茶店二軒あるのみなれば、彼  
の家建願は、八幡の社より手前なる橋より此方兩側の町家  
なるべし。といへり。今按するに、十四・五年以前とは元文の  
頃ならんか。右高澤氏の傳説にても、そのかみ此の地邊の  
さま思ひやられけり。延寶の金澤圖を見るに、開禪寺・龍淵  
寺より以南の地は郡地にて、人家等いまだなかりしにや、  
右兩寺をば街尾となしたり。妙感寺由來書に、寛文十一年  
泉野六斗林を請地になし、寺造營の由を記載す。此の頃よ  
り追々家屋をば建てたるならん。

○六勳林來歴

此の地名は、泉野の小名といへども、源平盛衰記に、加賀  
國の住人林六郎光明が郎等六勳太郎光景といふ人見なれ  
ば、壽永以前よりの地名にて、元は六勳といへる地なるを、